



島田さんが複製した青木繁の「海の幸」

館山市布良で描かれた青木繁の「海の幸」は、100年以上経っているのに、様々な経年変化が起きています。ですから、所蔵美術館から借用したデータをもとに複製画を作るには、色修正をしなければなりません。さらに作品の傷をデータ上で修正し、必要に応じて色補正をおこなう、できるだけ原画に近づけます。これはアナログ時代に習得した特殊技術と、今のデジタルの特徴を理解してこそできることなのです。



【しまだ よしひろ】  
1950年館山市生まれ。高校卒業後、都内印刷会社へ就職し、その後地元へ戻り自身の印刷会社「アートプロセス」を開業。日本には3人しかいない厚生労働大臣認定の「カラーレスキャナー一級技能士」取得者。現在は「青木繁《海の幸》誕生の家と記念碑を保存する会」副会長も務め、青木繁の5作品を複製画制作。

0470-people  
島田吉廣さん  
インタビュー・写真・文 菅野博

描いた当時の状態に複製する

私はこれまで青木繁の複製画を5作品制作しました。何度も美術館に通い、原画を見ては記録して、記憶して、データと照らし合わせての繰り返しです。代表作「海の幸」の特徴としては、ダークブルーが多く使われています。複製画でこの色を出すのはとても難しいのです。赤に青を足すとブルーになります。強く足し過ぎるとフラックになってしま

う。複製作業に取り組んで感じたのは、「名画は茶系色が多いな」ということ。たとえばミレーの「落穂拾い」や「羊飼」なども難しかった。なかでも「朝日」という作品について、私はずっと悩んでいました。晩年病と闘いながら、朝日を描くものだろうか。実際に描かれた唐津湾は北を向いていて朝日は昇りません。これは、幸せの絶頂だった頃の布良の夕日ではないかと。しかし、修正作業を通して絵に向き合っていると、波にすぐく力が入っていることがわかりました。朝日だろうと夕日だろうとどちらでもいいのです。青木が描きたかったのは太陽ではな

印刷技術の進歩と共に

高校では写真部に所属していました。将来も写真を撮りたいと思っていただけで、卒業してすぐに東洋インキという東京の会社に就職して、着色の研究をしました。インキは、顔料とニス混ぜ合わせて作ります。掃除にシンナーを使う

ASAで開発され、バルセロナ五輪で使われたたいへん優れたものでした。「館山にマグナスキャンを使っている製版会社がある」と富士フィルムの社内報で紹介されて知れ渡り、都内の仕事も広く手がけるようになりました。

アナログの特殊技術とデジタル知識の融合

ため身体には負担が大きく、具合が悪くなってしまい、1年あまりで辞めて館山に戻ってきました。その後、東京の小宮山印刷という会社から、カメラマンが足りないという声がかかり、再び上京しました。当時の印刷は、ガラスを使ったオフセット印刷。その後、フィルムに切り替わり、スキャナー時代がきました。バルセロナ五輪のときにデジタルになって伝達の高速化が進みました。今はCCDの技術が上がって、コンパクトカメラでも大きなデータを扱えるようになりました。私がいた時代は、印刷技術が一番進歩した時期。変化とともに、私の仕事もとにかく忙しかった。30才近くで再び館山に戻り、クロスフィールド社製マグナスキャン656というデジタルスキャナーを千葉県で初めて導入しました。これはN

く、波だったんだと気がつきました。「朝日」という作品名は没後につけられたのですが、本当のタイトルは「玄界灘」なんです。なんじゃないかと私は思っています。原画はひび割れている部分が多いので、それを細かく修正して、描いた当時の状態に戻して複製画を作りました。実は私も心臓に疾患を持っていて、いつ自分の人生が終わるかわからない。青木の苦悩と自分を照らし合わせながら頑張りました。何度も色修正を出して吟味し、完成までに2年近くかかりました。最近、「朝日」が佐賀県重要文化財に指定されたと聞いてとても嬉しく思っています。

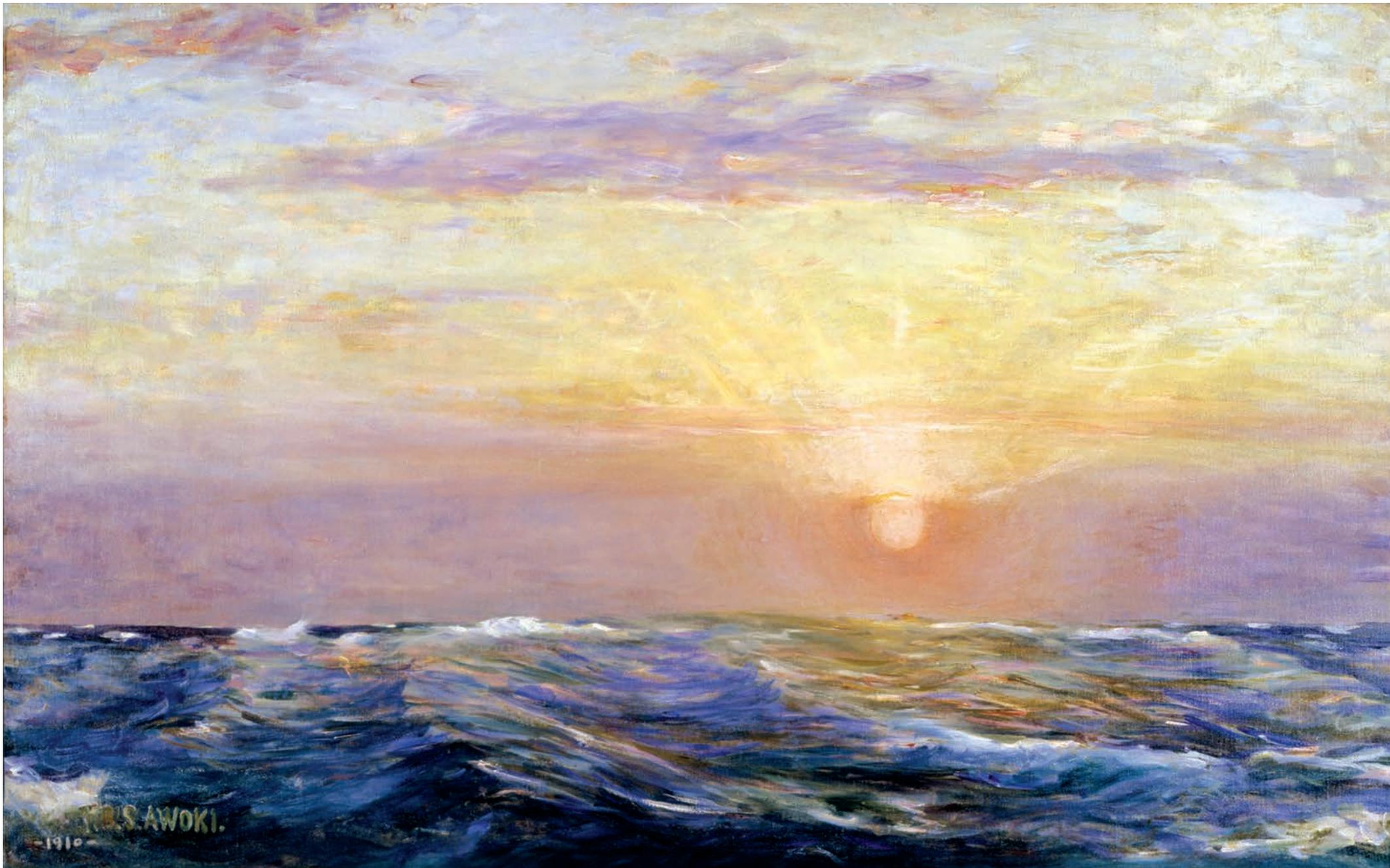
布良は美術界の聖地

私が小学生の頃、学校に「海の幸」の写真が飾られていたのですが、あんな下品な絵は大嫌いと感じていました。日本で最初の洋画の重要文化財「海の幸」が描かれた布良は、美術界の聖地と呼ばれているそうです。2008年には、布良の活性化を目ざして「青木繁《海の幸》誕生の家と記念碑を保存する会」ができました。青木繁が過ごした小谷家住宅を保存するために、全国の画家の皆さんと一



青木繁「海の幸」記念館・小谷家住宅  
〒294-0234 千葉県館山市布良 1256  
毎週土・日曜（お盆時期・年末年始を除く）  
4～9月 10:00～16:00 10～3月 10:00～15:00  
入館料（維持協力金） 一般 200円

緒にお金を集めて修復し、2016年に青木繁「海の幸」記念館を開館しました。全国から400名を超える友の会の会費と入館料などで運営しています。この活動を通して、青木繁を誇りに思えるようになりました。今では、「海の幸」は布良神社の祭りの神輿がヒントになって描かれたと確信しています。今年のGWには廃校の富崎小学校を活用して、「海とアートの学校まるごと美術館」を開催しました。夏休みには、渚の駅ギャラリーで「館山の海を愛した画家たち展」を開催し、複製画も展示予定です。



51 free paper

0470-

cover artwork by Shigeru Aoki  
[朝日] 1910年  
所蔵：佐賀県立小城高等学校同窓会黄城会  
修正：島田吉廣